

# クリニックレター 2021年11月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

#) 先月号でもお知らせしました通り、今シーズンのインフルエンザワクチンの生産量が例年に比べて7割程度とのことで、当院でも約200名様分の確保が精一杯という状況です。11月1日現在では、まだ少し余裕がございますので、ワクチン接種を希望される方は、どうぞお早めにお申し出ください。

## 2型糖尿病の治療薬

今回はいつもと少し趣向を変えて、糖尿病の治療薬についてお話ししたいと思います。糖尿病には1型と2型があり、1型は膵臓からインスリンが分泌されなくなる病気であり治療法はインスリンの補給が必須となります。2型は遺伝的な要素に加えて過食や運動不足によりインスリンの効果が低下し、最終的にはインスリンが分泌されにくくなるタイプで、多くの方の糖尿病はこの2型に分類されます。この2型糖尿病に対しては様々な治療薬が開発されていますので、以下、順をおってご説明したいと思います。

### A: ビグアナイド薬

- 作用機序: 肝臓での糖新生を抑えます。また、糖の吸収を抑制したり、筋肉などでのインスリンの効きを改善する作用などがあります。
- 起こりやすい副作用: 下痢、悪心など
- 薬の名前: メトホルミン(メトグルコ®など) ブトホルミン(ジベトス®など)

### B: スルホニル尿素(SU)薬

- 作用機序: 膵臓のインスリン分泌を促進します。
- 起こりやすい副作用: 低血糖、体重増加など
- 薬の名前: グリベンクラミド(オイグルコン®など) グルメピリド(アマリール®など)

### C: α-グルコシダーゼ阻害薬(α-GI)

- 作用機序: 小腸での糖質の消化・吸収を遅らせます。食後高血糖を改善します。
- 起こりやすい副作用: 腹部膨満感、下痢、おならの増加など
- 薬の名前: アカルボース(グルオバイ®など) ボグリポーズ(ベイスン®など)

### D: チアゾリジン薬

- 作用機序: 脂肪組織、筋肉、肝臓などでのインスリンに対する感受性を高めます。
- 起こりやすい副作用: むくみ、体重増加など
- 薬の名前: ピオグリタゾン(アクトス®)

### E: SGLT-2 阻害薬

- 作用機序: 尿細管からのブドウ糖取りこみを阻害します。
- 起こりやすい副作用: 脱水、尿路・性器感染など
- 薬の名前: ~フロジン(スーグラ®) フォシーガ® カナグル® など

### F: インクレチン関連薬

インクレチンとは、食事を摂ると小腸から分泌されるホルモンで、GLP-1 と GIP の2種類が知られています。このうち、GLP-1 の作用としては、

- ① 胃から腸への食べ物の排出を抑制する。
- ② 膵β細胞からのインスリン分泌を

促進する。③ 膵α細胞からのグルカゴン(血糖上昇作用のあるホルモン)分泌を抑制する。④ 中枢神経系に働き食欲を抑制する。が知られており、前頁で説明したように、食事をとることで小腸から分泌された GLP-1 は GLP-1 受容体に作用して、膵β細胞からインスリンを分泌させます。しかし、GLP-1 は DPP4 という酵素により、その作用が阻害されます。そこで、この酵素(DPP4)の作用を失効させるためのお薬、即ち **DPP4 阻害薬**が開発されました。そしてもう一つが、**GLP-1 受容体作動薬**です。即ち、GLP-1 受容体に対して GLP-1 と同じように働き、DPP4 の影響を受けずに、食後の膵臓からのインスリン分泌を増強する働きをします。この二つ(DPP4 阻害薬と GLP-1 受容体作動薬)を合わせて、インクレチン関連薬と呼びますが、それぞれのお薬の製品名と特徴を表にまとめてみました。

	薬剤名(商品名)	特徴
DPP4 阻害薬	ジャヌビア・エクア ネシーナ・テネリア etc	低血糖がおこりにくい すべて経口薬なので服用が簡単 副作用も比較的少ない
GLP-1 受容体作動薬	ビクトーザ(注射) オザンピック(注射) トリルシティ(注射) リベルシティ(経口) etc	確実な血糖改善作用が期待できる。 これまで1日1回の注射(自己注射)だけであったが、昨年からは週1回の製剤が使えるようになった。 体重減少効果が期待できる。 経口薬も発売されたが服用方法がやや複雑。 使用直後に嘔気、便秘などの副作用が現れることがある。

DPP4 阻害薬は約10年ほど前から実用化されたお薬で、副作用の可能性が少ないことから、ここ最近よく使われるようになり、ビグアナイド薬やSGLT-2 阻害薬との合剤も次々と発売されています。また、GLP-1 受容体作動薬は、週1回の自己注射薬が発売され、これまでのお薬では、HbA1C(採血から1-2か月前の平均血糖の目安となる数値)が下がりきらない方には、一度試していただきたいお薬です。このようにさまざまな抗糖尿病薬が開発されてきていますが、2型糖尿病の基本的な治療はあくまでも、食事と運動です。カーボレイトと糖質制限を心がけ、将来の心筋梗塞や脳卒中などの動脈硬化性疾患発症を少しでも予防したいものです。

### 患者様へのお知らせ

11月22日(月)を休診とさせていただきます。

### お車で来院される患者様へ

歩行者や近隣の方の迷惑になりますので、駐車場の指定されたスペース以外、及び、クリニック周辺の道路には、駐車されないようにお願いします。駐車中のアイドリングもおやめください。